

第23回区民車座集会（幸区）意見一覧 【テーマ：地域防災】

| No | 名前 | 意見・提案のサブテーマ | 意見・提案の内容 |
|----|--------------|--------------------------|--|
| 1 | ジンボ 神保さん | 町内会から被る恩恵 | 地域防災対策を検討するにあたり重要な組織として、町内会をあげる。しかしながら、町内会の現状は加入率は住民の50～60%、運営スタッフの高齢化、次の世代に交代したいが、その人材が不在な状況がある。町内会が活性化すれば、地域防災対策にとって有効と思われる。特に若い世代が町内会に加入し、町内会活動に興味を持ってもらうために、町内会会費の使い途、被っている恩恵のPRが必要と考える。 |
| 2 | サカイ 坂井さん | 災害対策協議会のあり方 | 災害対策協議会は、区内の「共助」構築を目的に設置されたが、そこに広く意見を取り入れていく仕組み作りと、地域防災と地区防災を連動させる議論が必要ではないか。 |
| 3 | アオヤギ 青柳さん | 日本国における基本的自然災害国家であることの認識 | 去年広島において阿佐南地区大災害が起き、多数の被害者が出たことが、記憶に残ってます。その時川崎市も土砂崩れで1人亡くなられております。川崎市も危機管理も進み（公助）において、土砂災害ハザードマップ、洪水ハザードマップなど作成していただいております。対策に対して進んでいることも承知しています。しかし、熊本震災が起き、その後豪雨が続きました。現在も全国から支援対峙している現状です。川崎市も例外ではなく、1時間に100mm近いゲリラ豪雨があることは事実であります。問題は、災害が起きてからでは遅いと思い、対応としては、非常災害情報の精度を徹底的に高め、その際にどこにもっとも早く安全に（避難場所）に行けることが、最も考える点だと思います。 |
| 4 | かみや 神谷さん | | 災害発生時における町内会としての活動について。 すぐに組織的活動を行なう事の困難性について。 |
| 5 | イトウ 伊藤さん | 避難所運営所会議について | 地域防災の拠点は避難所運営会議となる。区内の小、中学校と高校だと思えますが、設備が不十分に思えます。備蓄品、非常食においては、とても避難者だけでも1～2回分しかありません。まして拠点となるには絶対数が不足していると思えます。 近く、小、中学校で給食が始まりますが、給食センターの耐震整備はもちろんの事、災害時の非常食の巨大倉庫の機能と配送システムの充実が必要だと思えます。避難所運営は、町内会、自治会と自主防災組織が大きく関わっているので、まさに地域防災の拠点といえると思えます。 |
| 6 | かとう 加藤さん | | 地域防災の重要性が増々高まる中、町内会においても防災用備蓄品は逐次増加の傾向にあります。しかしながら町内会の防災倉庫は1つと限定され、面積も限定されており、備蓄品の置き場に困っている現状です。従ってこの限定を緩和できないでしょうか。 また、中学校（避難所）の市の防災倉庫にある備蓄品について、どの規模災害なら使用できるのか等、町内会の備蓄品との関係上使用ガイドラインを明確にしてほしい。 |